

# 柏崎市子ども読書活動推進計画（かしわざき子ども読書プラン）の

## 取組と現状

柏崎市立図書館

### 第二次柏崎市子ども読書活動推進計画（令和2（2020）年4月～5年間）

子どもたちが読書に親しむことにより、言葉や文字を学び、豊かな想像力・表現力・感性を育み、生きる力や健やかな成長につなげることを目的とします。

#### ■計画の目標

##### （1）読書習慣の形成

子どもが自主的に読書をする習慣の形成を目指します。

##### （2）読書環境の整備

家庭、地域、保育園・認定こども園・幼稚園、学校及び図書館を始めとした公共教育機関などそれぞれの場面において発達段階ごとの子どもを取り巻く読書環境の整備を目指します。

#### ■基本方針

##### （1）自主的な読書活動の推進

##### （2）読書機会の提供と諸条件の整備

##### （3）読書活動推進に関する啓発活動の促進

## これまでの主な取組と状況

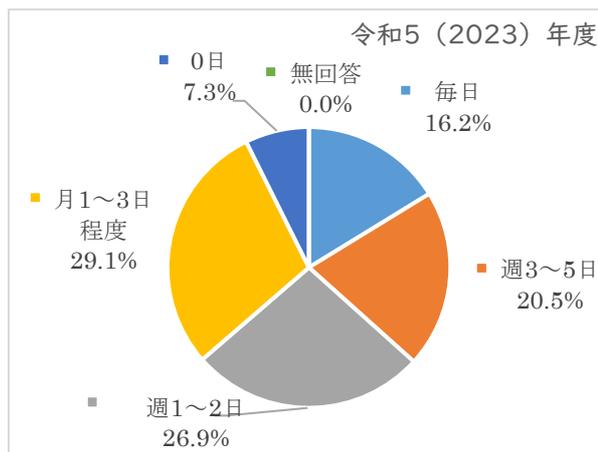
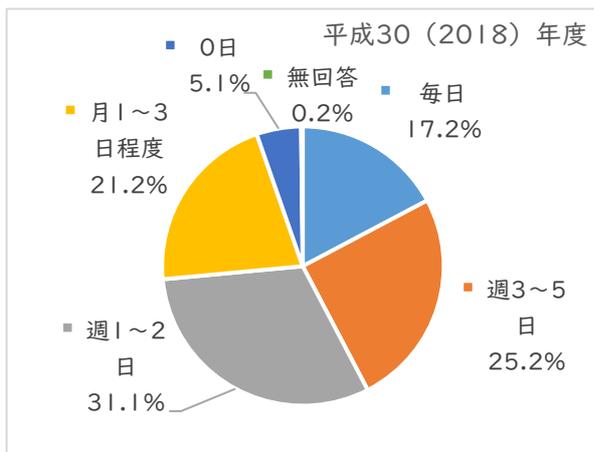
第二次の推進計画により令和2（2020）年度から取り組んだ内容と状況は次のとおりです。

## Ⅰ 家庭・地域における取組と現状

### ●家庭での取組等

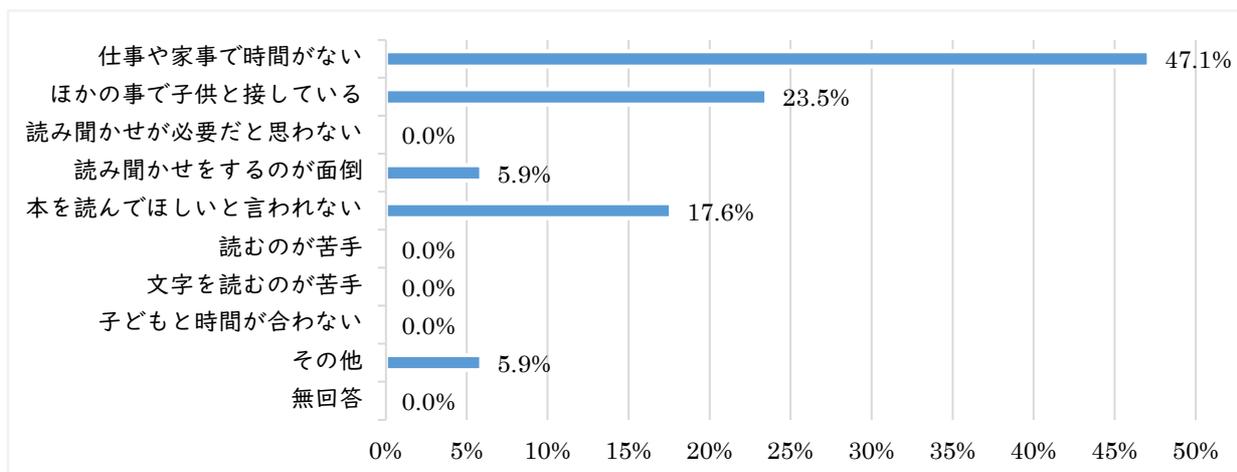
- ・家庭での読み聞かせの充実を図るために、ブックスタート事業をはじめ、読み聞かせ講座、絵本イベント、絵本の紹介などを通じて、保護者に読み聞かせの効果などに関する啓発を行いました。

家庭での読み聞かせ実施率（幼児保護者）



- ・読み聞かせを週1日以上行っている幼児保護者は、63.6%と前回調査時から9.9%減少しています。目標値の80%には16.4%足りず目標値に達しませんでした。約6割の保護者が週1回以上読み聞かせをしています。また、月1～3日程度読み聞かせをしている保護者は7.9%増えています。月1回以上読み聞かせをしている保護者は前回調査時と変わらず約9割でした。週3～5日、週1～3日読み聞かせをする保護者が月1～3回に移行していると考えられます。

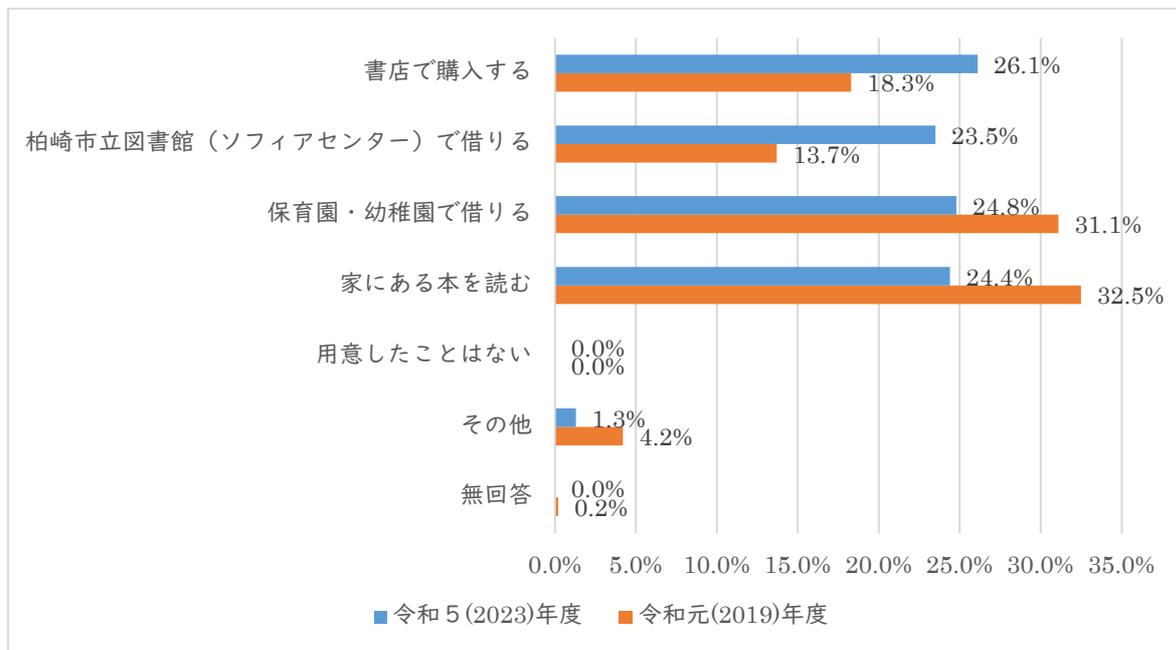
家庭で読み聞かせを0日と回答した保護者（7.3%）の理由（R5（2023）年度幼児保護者）



- ・「家庭で読み聞かせを0日」と回答した保護者の最も多かった理由は「仕事や家事で時間がない」の47.1%でした。また、「読み聞かせが必要だと思わない」は0.0%でした。読み聞かせは必要と思いつつも仕事や家事で取組が難しい状況があります。

子どもに読む本はどのように用意するか

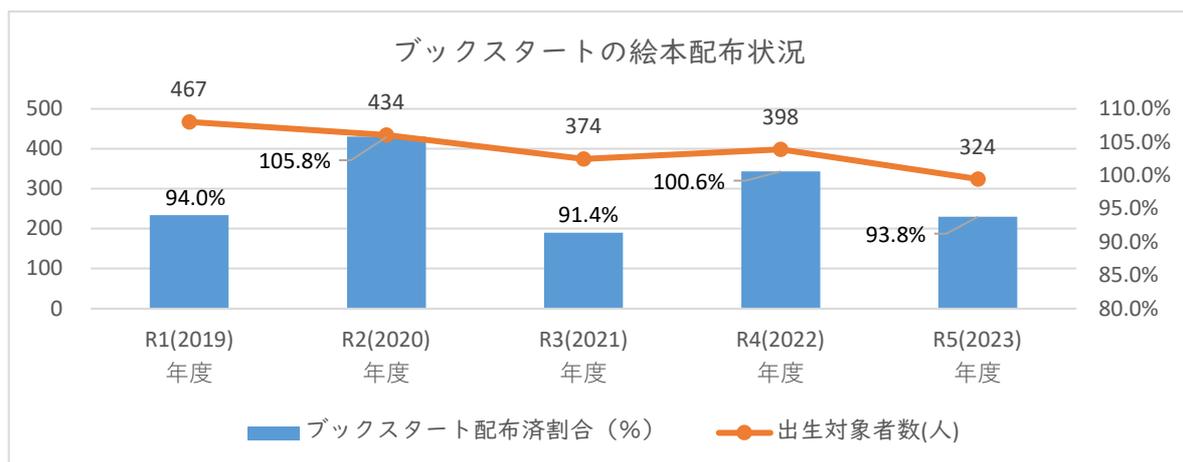
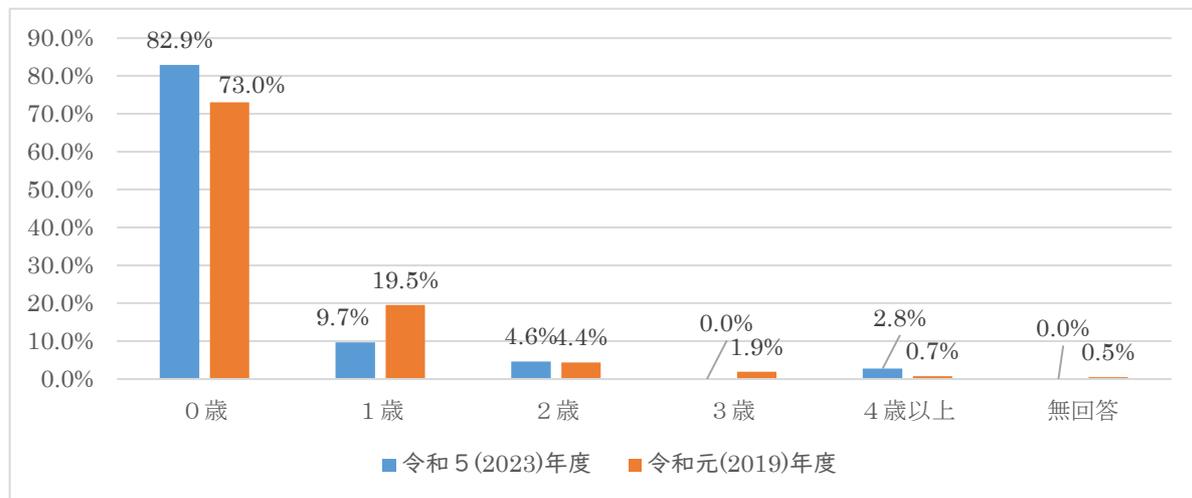
(R5 (2023) 年度幼児保護者)



・読む本を「書店で購入する」が7.8%、「柏崎市立図書館で借りる」が9.8%増えました。「保育園・幼稚園で借りる」の割合は減少しましたが、24.8%の保護者は保育園や幼稚園にある本を継続して利用しています。市立図書館の利用が進んでいます。

初めて本を読んであげた年齢

(R5 (2023) 年度幼児保護者)



ふれあいブックスタートの参加状況

R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度
5回 15組 31人	12回 49人	12回 147人

- ・初めて本を読んであげた年齢は0歳が最も多く、前回調査時より9.9%増えました。  
ブックスタートでは、対象者の9割が絵本を受け取り、ふれあいブックスタートでは年々参加者も増えていることから、読み聞かせの必要性など保護者への意識付けができてきていると推測されます。

●地区コミュニティセンターなどの子ども読書活動 (R6(2024)年度調査)

年度	活動 児童図書 の設置	絵本読み聞かせ活動		貸出文庫 の利用
		子育てサークル主催	コミセン主催	
平成26(2014)年度	16館	4館	1館	12館
令和元(2019)年度	22館	2館	1館	13館
令和6(2024)年度	16館	1館	0館	10館

- ・地区コミュニティセンターでは、児童図書の設置や貸出文庫を活用し、読書環境を整備しています。

●子育て支援室及び子育て支援センター等の読み聞かせ

- ・保育園に併設の子育て支援室や元気館子育て支援センターでは、保育士が毎日読み聞かせを実施しています。(「親子お楽しみタイム」「キラキラ絵本」「あいう絵本」等)
- ・元気館内で実施する子育て講座「絵本であ・そ・ぼ」で保護者を対象に「絵本ライブ」を開催しました。親子で絵本に親しむ機会となりました。保育課と図書館の共同事業です。
- ・保育園に併設の子育て支援室や元気館子育て支援センターを会場に、図書館職員による読み聞かせを行う「出張おはなし会」等を実施しています。令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となるおはなし会が多くありました。

年 度	実施回数	参加者数
令和元(2019)年度	19回	延べ 613人
令和2(2020)年度	3回	延べ 79人
令和3(2021)年度	13回	延べ 153人
令和4(2022)年度	11回	延べ 139人
令和5(2023)年度	11回	延べ 112人

●孫育て講座やBP(ベビープログラム)講座等での「絵本で子育て」啓発

- ・市民プラザで開講している「孫育て講座」や「BP(ベビープログラム)講座」の中で、司書が会場に出向き、絵本を介した子育ての重要性や方法などを伝えました。

●放課後児童クラブの貸出文庫利用

- ・放課後児童クラブは、引き続き9団体が貸出文庫を利用しており、子どもたちが多様なジャンルの図書を読む機会になっています。

## ●児童図書の整備と利用促進

- ・各子育て支援室や元気館ジャングルキッズ、児童クラブで児童図書を購入し読書環境を継続して整えました。

## ■まとめ

地区コミュニティセンターなどで児童図書の設置が継続され、子どもたちが児童書に触れる環境が整っています。

読み聞かせの知識と経験の豊富な図書館職員による「出張おはなし会」の実施がコロナ禍で中止となるなど減少しましたが、引き続き継続することで子どもたちの絵本に触れる体験が、より充実したものとなりました。

約8割の保護者が0歳時から読み聞かせを始めていることから、ブックスタート事業やふれあいブックスタートによる保護者への意識付けが定着しつつあります。

幼児保育者の家庭での読み聞かせ実施率が全体的に減少傾向にあるものの、6割は読み聞かせを実施しています。「仕事や家事で時間がない」ことを理由に読み聞かせをしない現状も見えてきました。子どもに対する読み聞かせの関心や必要性を感じているものの、ライフスタイルの多様化により、読み聞かせや読書に取り組むことが難しい現状があります。各家庭のライフスタイルに合った取組の推進が必要です。

また、絵本の読み聞かせにあまり関心のない家庭での読み聞かせの充実を図るために、保護者に対する絵本の紹介の仕方や、読み聞かせの意義・効果のPR方法など、より工夫をした啓発活動をさらに考えていく必要があります。

## 《 2 幼稚園・保育園における取組と現状 》

### ●絵本読み聞かせの実施状況

- ・全ての幼稚園・保育園で、保育士による絵本の読み聞かせや紙芝居が毎日行われ、季節や年齢にあった絵本の紹介をしました。

### ●絵本の貸し出し

各園から保護者への絵本貸出しの状況

- ・園での絵本の利用が継続して行われました。
- ・保護者からは、「図書館へ行かなくても園で借りることができ便利」と好評を得ています。

### ●児童図書の整備と利用促進

- ・各保育園・認定こども園・幼稚園で児童図書を購入・寄贈図書を受け入れ読書環境を整えました。

### ●貸出文庫の利用

保育園、幼稚園への貸出し

	利用園数	利用率
令和元（2019）年度	27 園／33 園	81.8 %
令和5（2023）年度	24 園／32 園	75.0 %

- ・園の7割が継続して利用しています。
- ・園からは、「園所蔵以外の多くの図書等が利用できる。」と評価されています。

### ■まとめ

幼稚園・保育園においては、絵本等の読み聞かせや紙芝居が毎日行われており、園児は絵本等の楽しさに触れる機会が提供されています。また利用数は減ったものの、各園から保護者への絵本等の貸し出しもされており、保護者からも喜ばれています。さらに、各園では児童図書が設置され、貸出文庫の利用も定着しており、読書環境の充実が図られました。

今後も、園での読み聞かせや読書環境を充実させるとともに、保護者に絵本の紹介や読み聞かせの意義と効果の啓発活動を継続していく必要があります。

## 《 3 学校における取組と現状 》

### ●子どもの読書習慣と読書量

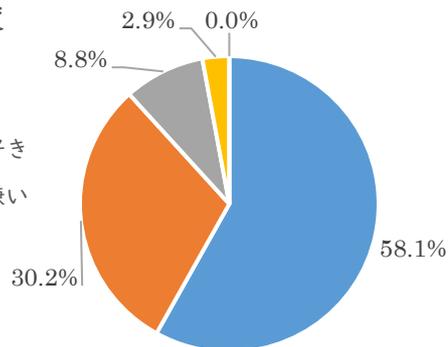
#### ・読書に対する興味

小学生では「好き」「どちらかというとき」と回答した児童が81.4%と前回調査に比べ6.9%減少し、目標値の93.3%に達しませんでした。中学生は75.5%と前回に比べ7.1%減少し、目標値の85.6%に達しませんでした。小学生は「本を読むのがあまり好きではない・好きではない」理由に「文章や文字を読むのが苦手だから」や「テレビやゲームのほうが楽しいから」を挙げています。また、中学生は「本を読むのがあまり好きではない・好きではない」理由に「読むのが面倒だ」や「テレビやゲームのほうが楽しいから」を挙げています。学年が進むにつれ、活字や読書に抵抗を感じたり、他の趣味嗜好に興味を広がるのが原因と推測されます。今回初めて調査した高校生は68.9%でした。結果、目標値に達しなかったものの、小学生は約8割、中高生は約7割が「読書が好き」の傾向にあります。

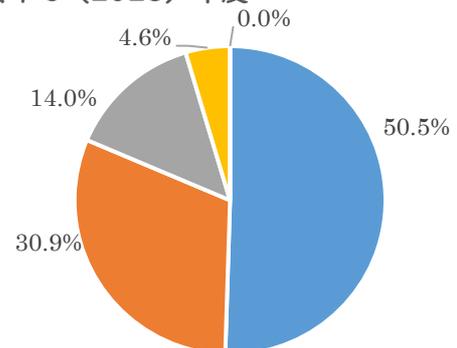
#### 小学生

平成30（2018）年度

- 1. 好き
- 2. どちらかというとき
- 3. どちらかというとき嫌い
- 4. 嫌い
- 5. 無回答



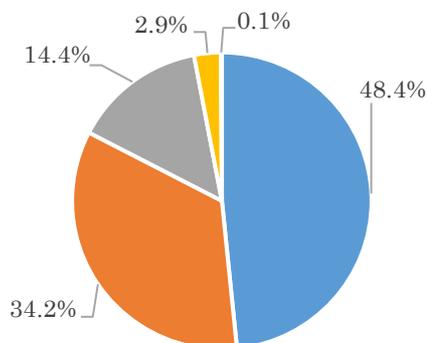
令和5（2023）年度



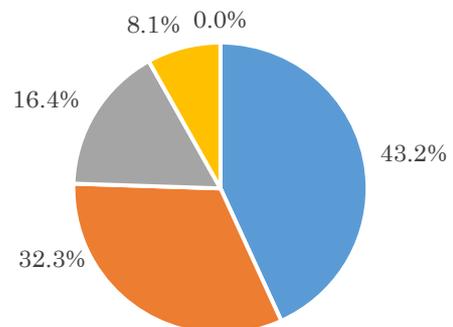
#### 中学生

平成30（2018）年度

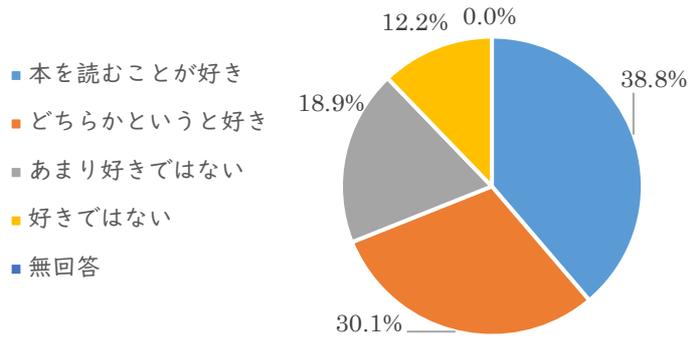
- 本を読むことが好き
- どちらかというとき
- あまり好きではない
- 好きではない
- 無回答



令和5（2023）年度

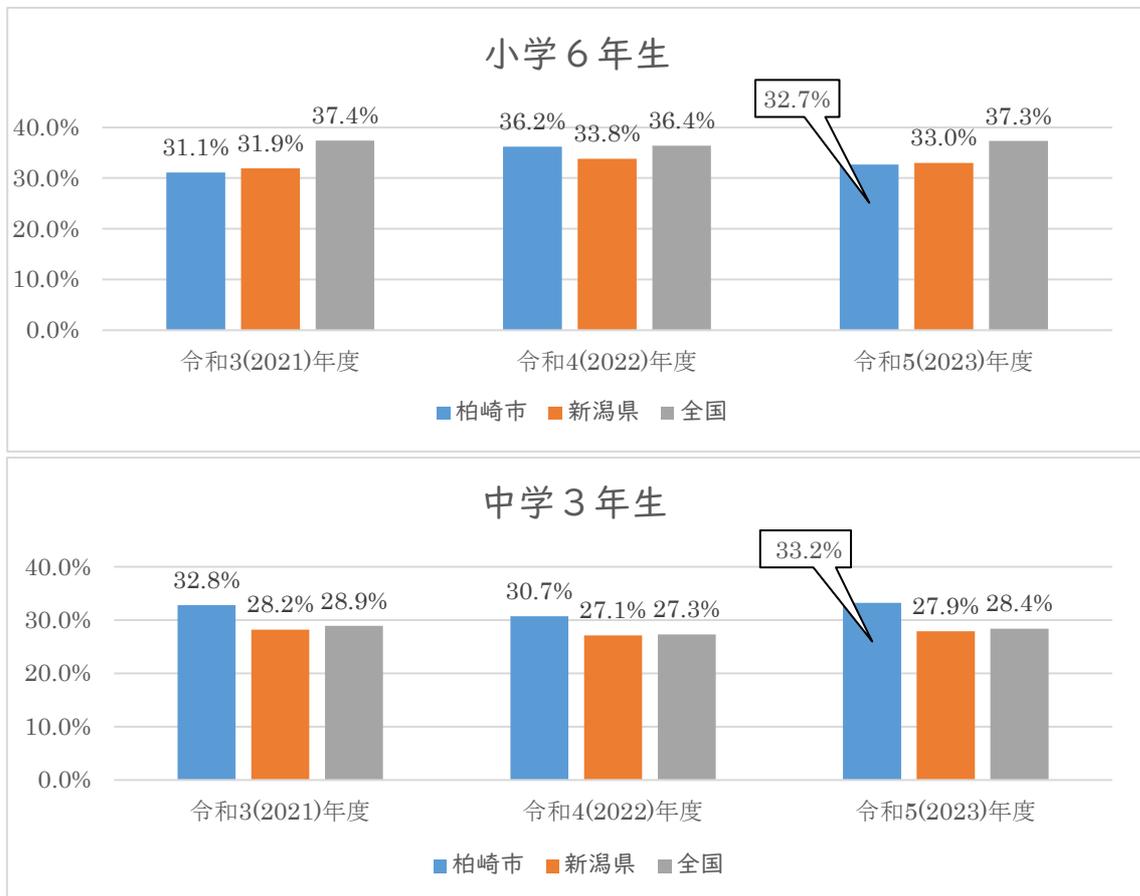


令和5（2023）年度



・読書習慣の定着

毎年実施されている全国学力・学習状況調査における読書に関する状況  
家や図書館で1日当たり30分以上読書をする子どもの割合

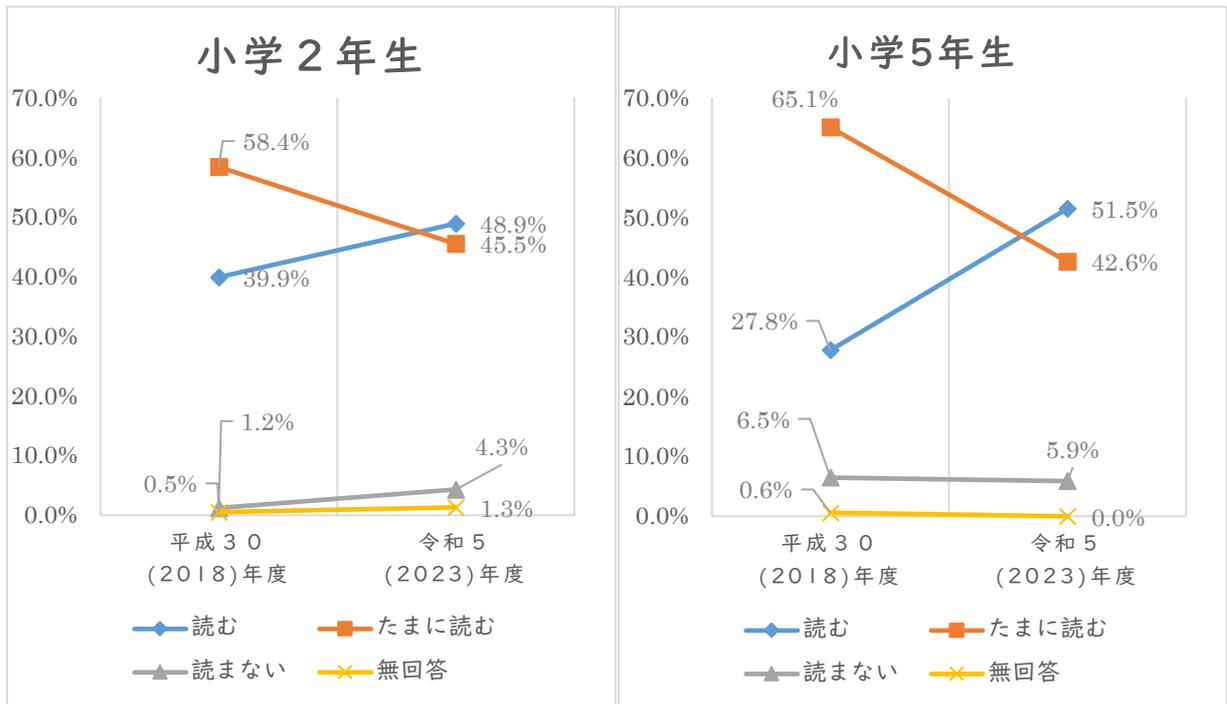


・家や図書館で1日当たり30分以上読書をする子どもの割合は、小学生は32.7%と目標値の40%には達しませんでした。中学生は33.2%と目標値の37%には至りませんでした。しかし、小学生は、全国、新潟県の平均とほぼ同じく、中学生は、全国、新潟県の平均を上回っています。目標には達しませんでした。一定数の児童・生徒の読書習慣は定着してきているものと思われます。

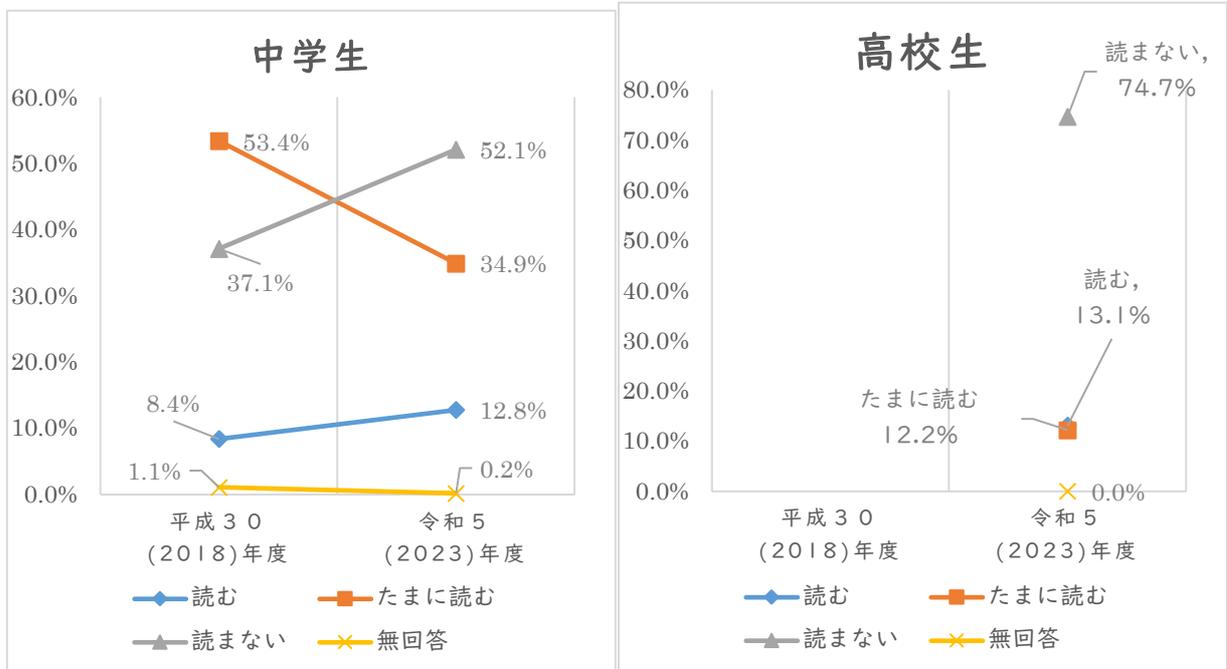
●学校の図書室の利用

図書室の本を読みますか（図書室の利用状況）

（R5（2023）年度調査）



- ・小学生は2年生、5年生ともに「読む」が「たまに読む」を超え大きく伸びました。
- ・小学生の読む子どもが増加している背景には、学校読書支援員の読書支援があると推測されます。



- ・中学生は、学校図書室の本を「読まない」は37.1%から52.1%と大きく増加し、「たまに読む」が18.5%減少しています。高校生は、74.7%が「読まない」と回答しています。
- ・中学生の「学校図書室の本を読まない理由」を分析する必要があります。

中学生の「本を読むことが好きか」と「学校図書室の本を読むか」の割合

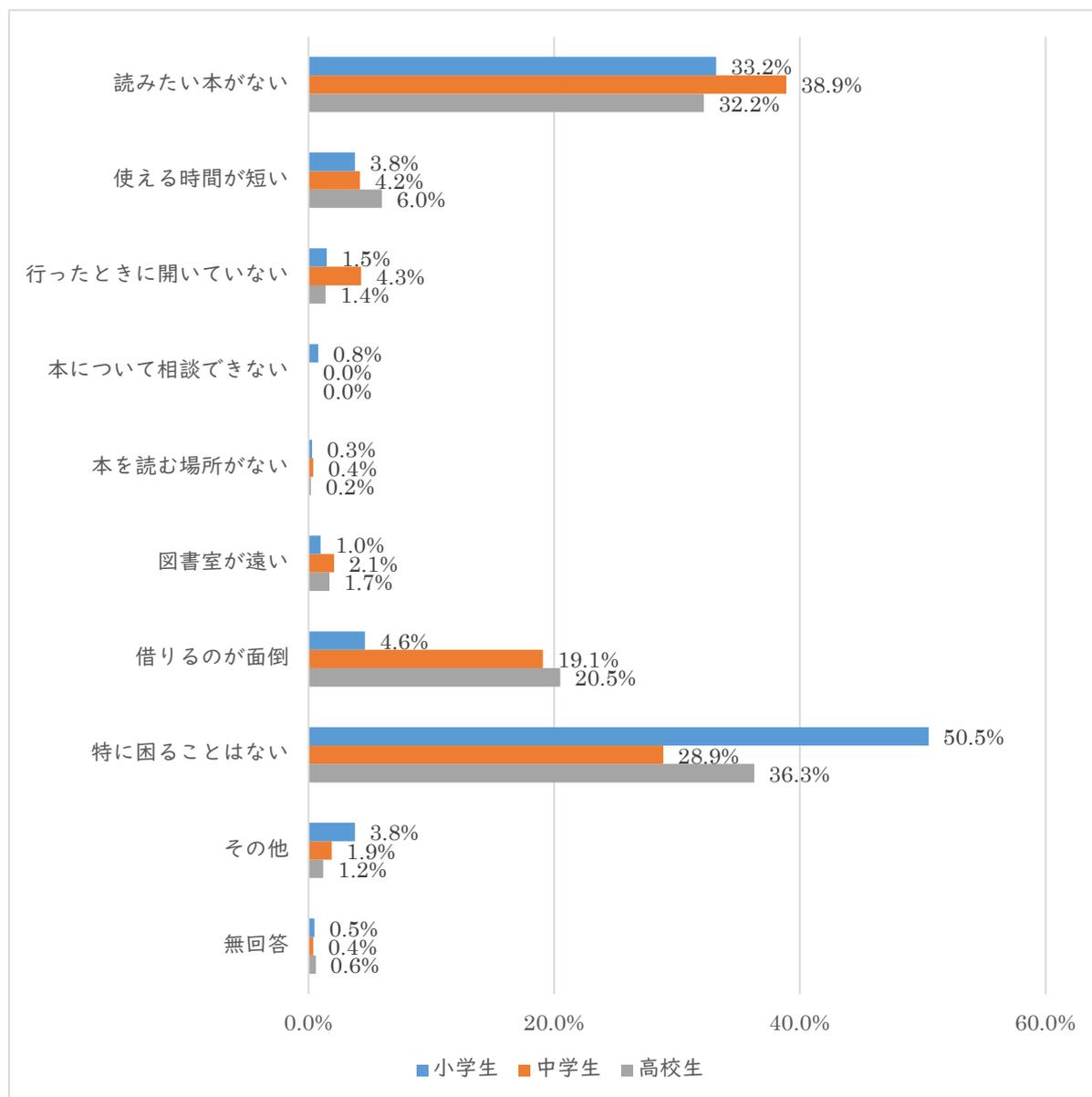
(R5(2023)年度調査)

中学2年生		質問7 学校の図書室の本を読みますか			
		読む	たまに読む	読まない	回答人数
質問2 本を読むことが好きですか (絵本、歴史、理科などのマンガ・雑誌などを含む)	好き・どちらかというが好き	63人	153人	183人	400
		15.8%	38.3%	45.8%	
	あまり好きではない・好きではない	5人	32人	93人	130
		3.8%	24.6%	71.5%	

・中学生は、本を読むことが好き・嫌いにかかわらず、学校の図書室の本を読まない生徒が一定数いることがわかります。

学校図書室の利用で一番困る理由（全体）

(R5(2023)年度調査)



「読みたい本がない」と回答した割合

	平成 25 (2013) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和 5 (2023) 年度	前年度比
小学生	27.4 %	26.7 %	33.2 %	6.5 %増
中学生	34.8 %	30.8 %	38.9 %	8.1 %増
高校生	-	-	32.2 %	-

- ・学校図書室を利用する際に一番困ることについて、小学生の5割が「困ることはない」と回答していますが、なぜ困らないのかを分析する必要があります。
- ・理由は何の学年も「読みたい本がない」が一番多く、増加傾向にあります。特に中高生は「読みたい本がない」や「借りるのが面倒」と感じる傾向にあります。児童・生徒が「読みたい」と思う、または興味を持つような学校図書の整備充実を進める必要があります。

「学校図書室の本を読まない中学生」の図書室利用で一番困ること (R5 (2023) 年度調査)

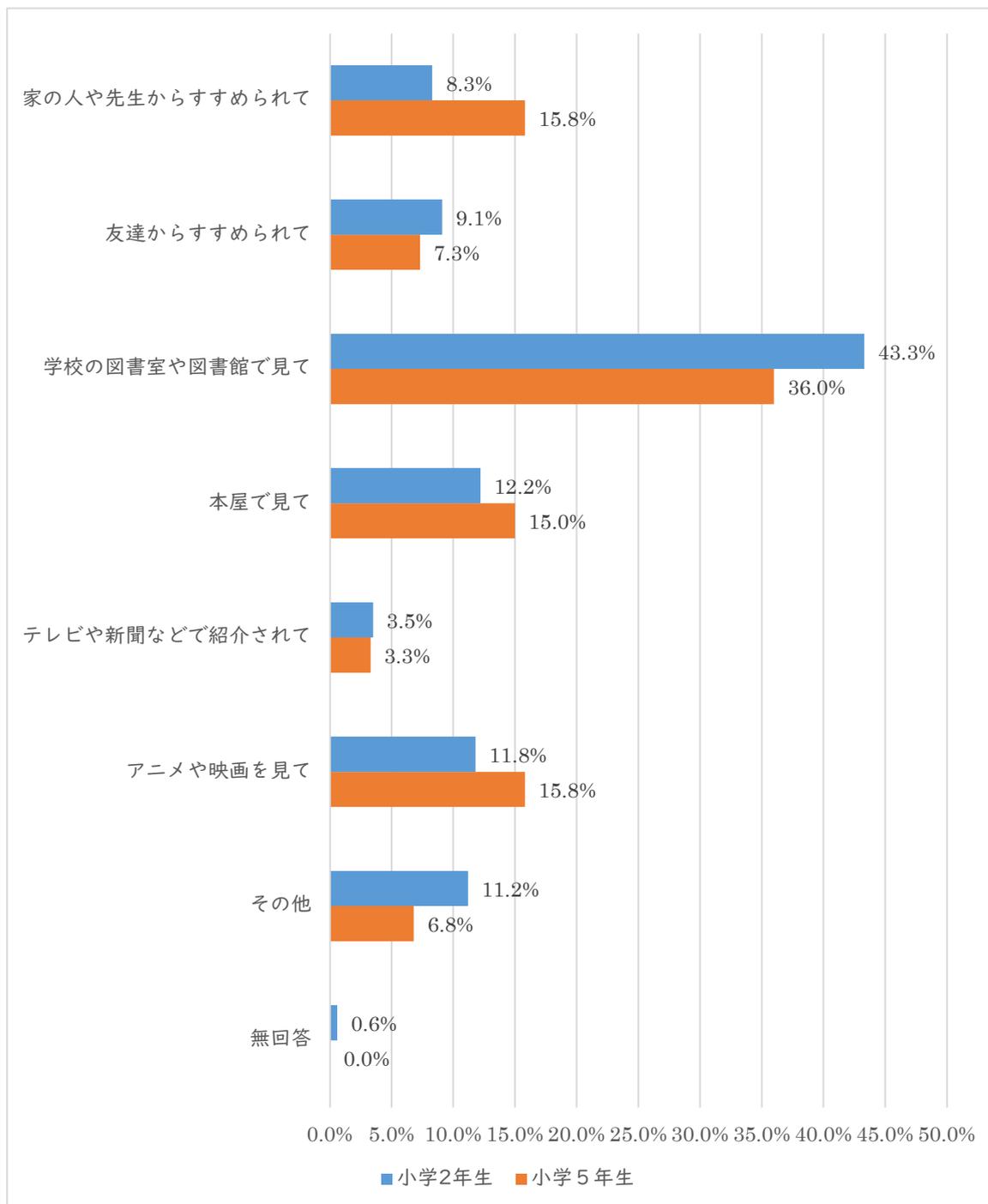
図書室の本を読まない		学校の図書室利用でいちばん困ることは何ですか。									
		読みたい本がない	使える時間が短い	行ったときに開いていない	本について相談できない	本を読む場所がない	図書室が遠い	借りるのが面倒	特に困ることはない	その他	無回答
好き・どちらかというところが好き		40.4 %	1.6 %	2.2 %	0.0 %	0.0 %	2.2 %	21.3 %	30.6 %	1.6 %	0.0 %
あまり好きではない・好きではない		35.5 %	2.2 %	1.1 %	0.0 %	1.1 %	2.2 %	22.6 %	32.3 %	1.1 %	2.2 %

- ・中学生の「本が好き・どちらかというところが好き」と「あまり好きではない・好きではない」それぞれの「学校図書室利用で一番困ること」を分析したところ、どちらも学校図書室に「読みたい本がない」ことが最も多く回答されていました。特に読書が好きと答えた生徒のほうが読む本がないと感じている割合が高く、学校図書館で読みたいという要求に十分応えていないことが考えられます。また、読書が好きでない生徒に対しては、手に取りやすく読みたいくなるような本が学校図書館にないことが考えられます。

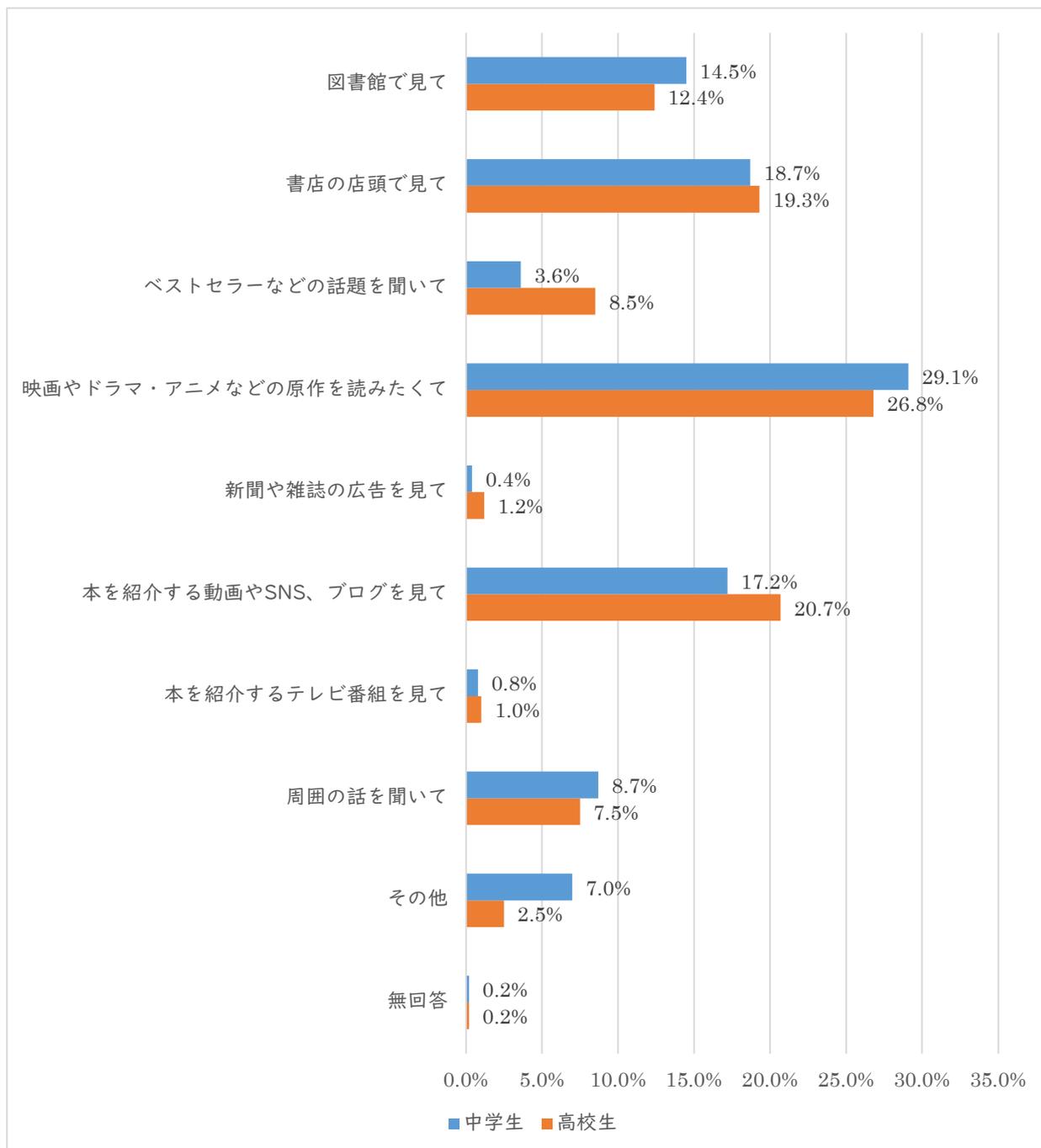
●読む本を選ぶきっかけ

小学生

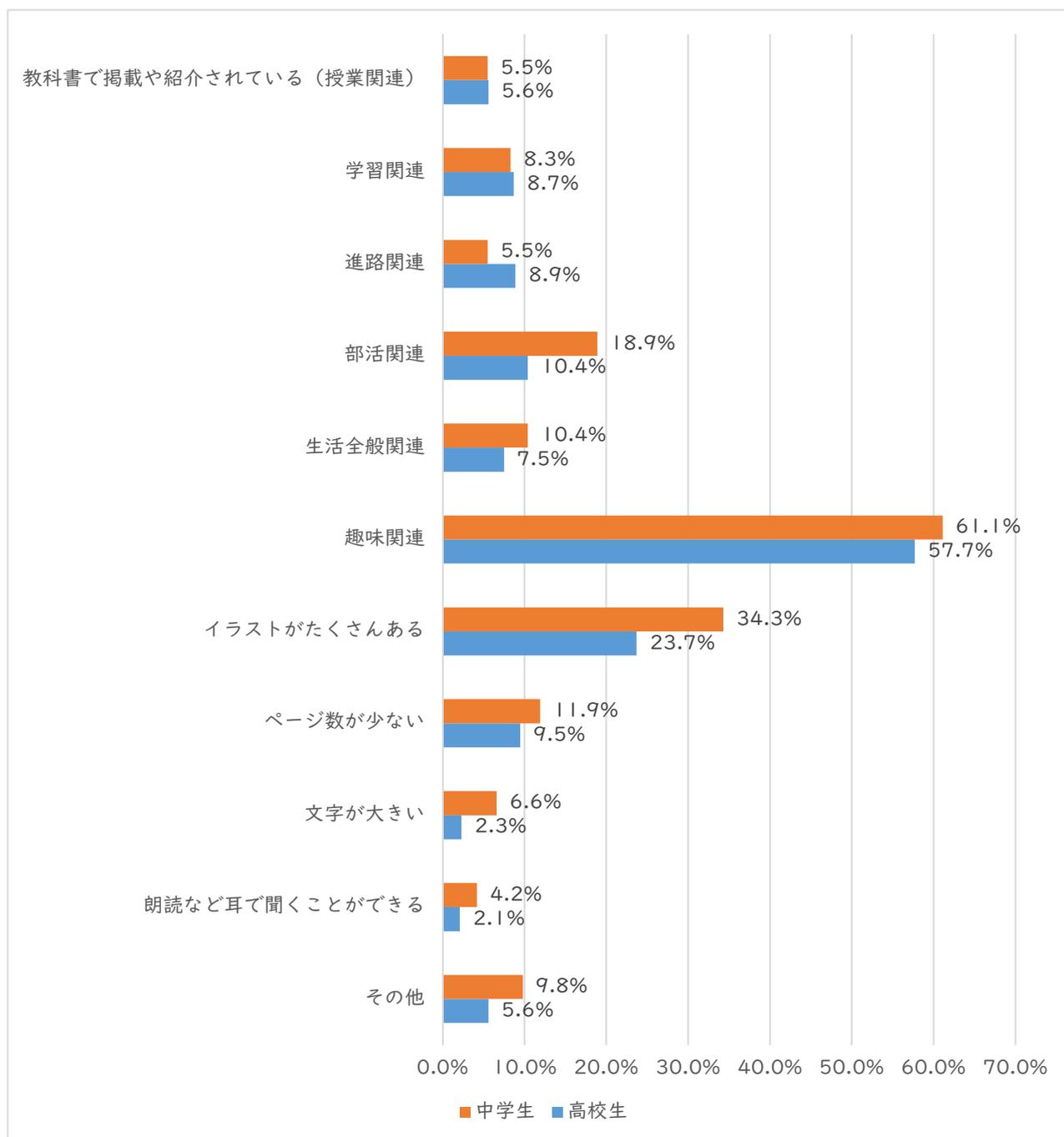
(R5 (2023) 年度調査)



- ・小学2年生の43.3%と小学5年生の36.0%は、学校の図書室や図書館で見て本を選んでいきます。このことから、小学生は学校の図書室や図書館の読書環境の整備が重要であることがわかります。
- ・小学5年生になると、学校の図書室や図書館で本を選ぶことが減り、家の人や先生からの勧めや、アニメや映画の影響、本屋で見て本を選ぶように変化していくことがわかります。
- ・小学2年生・5年生ともに、約1割が家の人や先生、友達の勧めで本を選ぶことから、本を子どもたちに手渡す手法の工夫がより必要になります。また、学校読書支援員の読書支援を継続して進めていきます。



- ・中学生・高校生ともに、映画やドラマ・アニメなどの原作を読みたいという回答が一番多く、次に書店や動画・SNS・ブログからと回答しています。このように、小学生とは異なり、学校図書室や図書館ではなく、中高生は最新の情報から読む本を選ぶ傾向にあります。反対に、新聞や雑誌の広告やテレビの情報から読む本を選ぶ割合はかなり少ないです。
- ・学校図書室の本を読まない中学生の、本を読むのが「好き・どちらかというとき」と「好きではない・あまり好きではない」ごとの「本を選ぶきっかけ」を分析したところ、どちらも一番に「映画やドラマ・アニメなどの原作」を選んでいます。読書が好きな生徒は「本を紹介する動画やSNS、ブログ」、次に「書店」と自発的に読みたい本を探し選んでいる傾向がありますが、読書が好きでない生徒は「図書館」や「書店」、「周囲の人の話を聞いて」と自身が目にした本や、聞いた情報により本を優先して選んでいる傾向にあります。



- ・どんな本が読みたいのかの回答は、趣味関連が最も多く、中学生が61.1%、高校生が57.7%でした。次にイラストがたくさんある本、部活関連の本でした。
- ・学校図書室の本を読まない中学生の、本を読むのが「好き・どちらかという好き」と「好きではない・あまり好きではない」それぞれの「本を選ぶきっかけ」を分析すると、どちらも一番に趣味関連の本が読みたいことがわかりました。次に「イラストがたくさんある本」を選んでいきます。読書が好きでない生徒は、「ページ数が少ない本」や「文字が大きい本」などを選び、誰でも読みやすい本や手軽さを求めている傾向にあります。
- ・中高生への読書を進めるには、趣味嗜好が広がる年代に合わせた蔵書構成や多様な読書スタイルを検討する必要があります。また、本を手にするきっかけとなるよう、興味を引くジャンルを把握する必要があります。

●市立小中学校図書館の資料整備

- ・各小中学校に児童・生徒用図書の予算配当を行い、図書の整備を行いました。

●電子書籍の利用

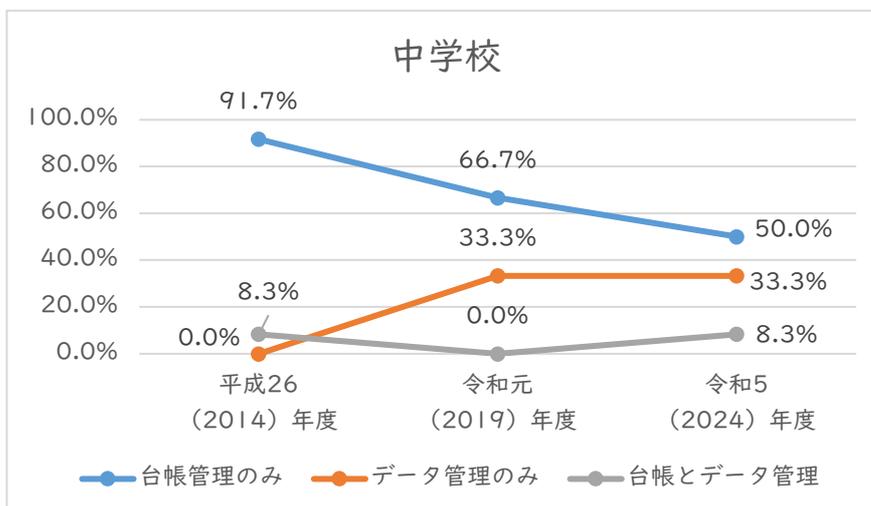
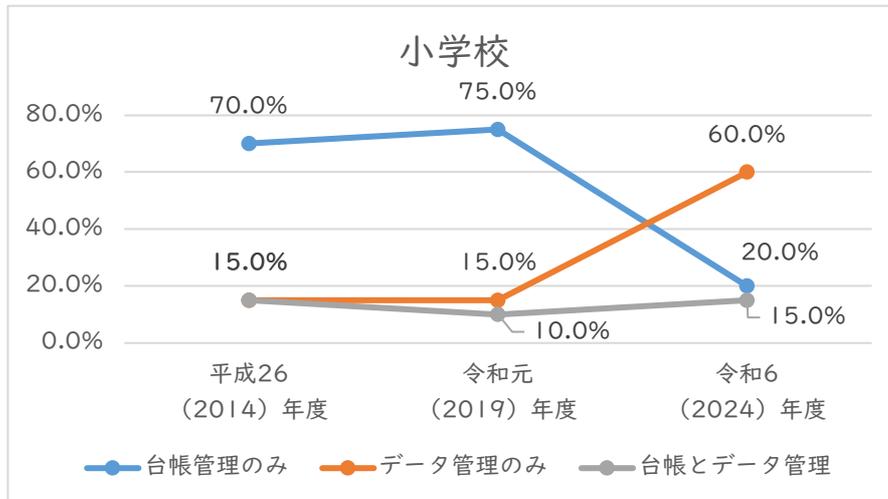
- ・パソコンやスマートフォン等の電子端末機で物語や小説を「よく読む・たまに読む」子どもはかなり増加しています。各機器やアプリ等の普及により、手軽に読書をする事ができる状況が進んでいます。

	平成 25 (2013) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和 5 (2023) 年度	前年度比
小学生	14.7 %	17.8 %	37.8 %	20.0%増
中学生	26.4 %	31.8 %	43.8 %	12.0%増
高校生	—	—	54.2 %	—

●学校図書館の図書データ管理

学校図書管理システムの導入

- ・蔵書管理は紙台帳からパソコンによるデータ管理に移行しています。学校の状況により、紙台帳とデータの両方で管理しています。
- ・図書管理システムにより、蔵書の管理・統計等には有効性を見込めますが、それ以外の面では費用対効果が見込めないため、学校図書室において導入はされていません。



●朝読書の実施状況や読書旬間の実施

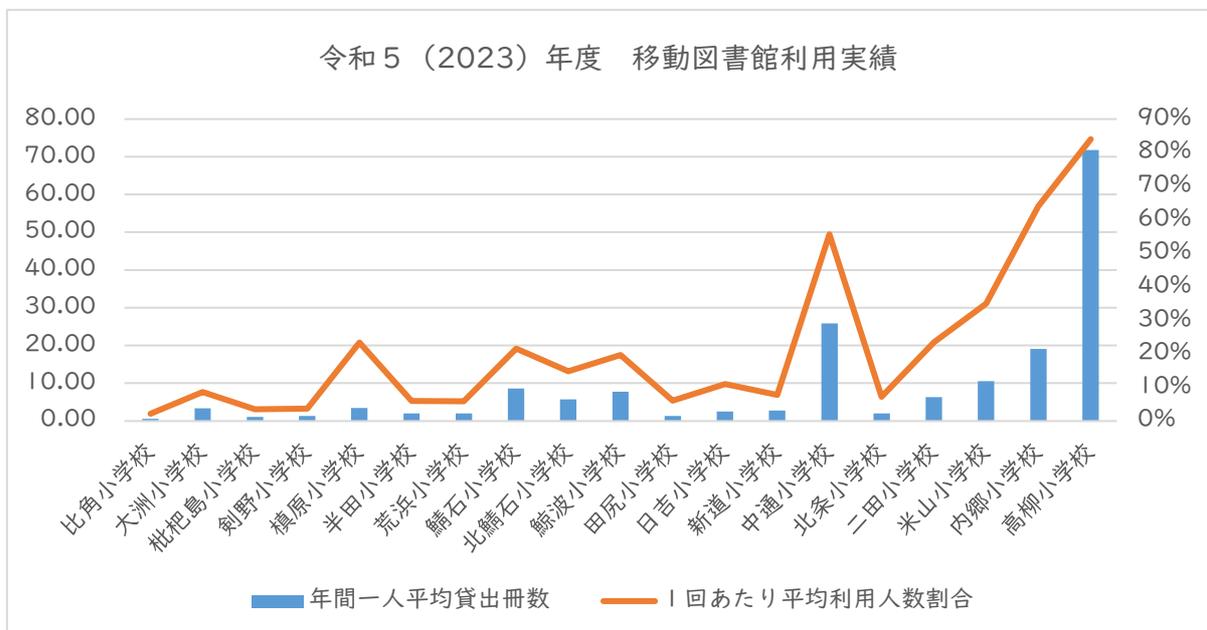
		平成 26 (2014) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 6 (2024) 年度
小学校	毎日	3 校	1 校	2 校
	週に 3～4 回	6 校	12 校	5 校
	週に 1～2 回	11 校	6 校	9 校
	実施なし	0 校	1 校	3 校
中学校	毎日	3 校	5 校	2 校
	週に 3～4 回	9 校	7 校	6 校
	実施なし	0 校	0 校	3 校

・朝読書を推奨し、各学校の状況に応じ実施しています。また、図書委員会活動や読書旬間を計画的に実施しました。小学校では、学校読書支援員と連携しながら、本の借り方や活用の仕方など支援を受けながら読書の充実を図りました。

●移動図書館（自動車文庫）の利用状況

・図書館利用が困難な児童に読書の機会を提供するため、図書館から月に1回程度、移動図書館車に本を載せ、小学校で巡回貸出しを行っています。学校の業間休みやお昼休みに児童が自身で読みたい本を選び、直接借りることができます。※令和6（2024）年度は高柳小学校が閉校のため、1校減となります。

	平成 26 (2014) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 6 (2024) 年度
利用小学校数	16 校	19 校	18 校※



・遠方で市立図書館の利用が難しい小学校は、一人当たりの貸出冊数が多い傾向があります。

●貸出文庫の利用状況

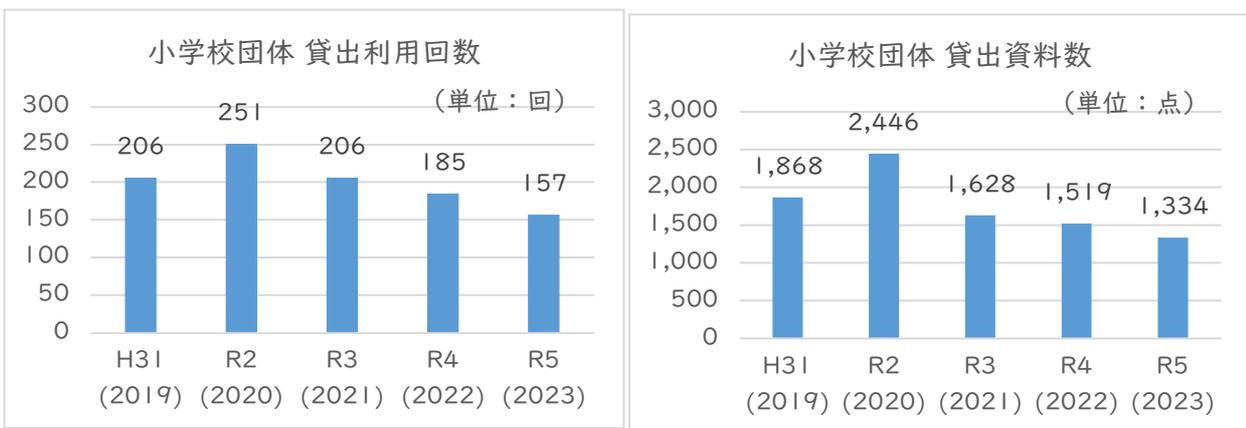
- ・学校図書室での図書を補完するため、利用希望のある小・中学校へ40冊程度、約2か月間（年6回）配本し、学校で利用できるよう配本しています。

	平成26（2014）年度	令和元（2019）年度	令和6（2024）年度
小学校	6校	10校	5校
中学校	1校	4校	1校

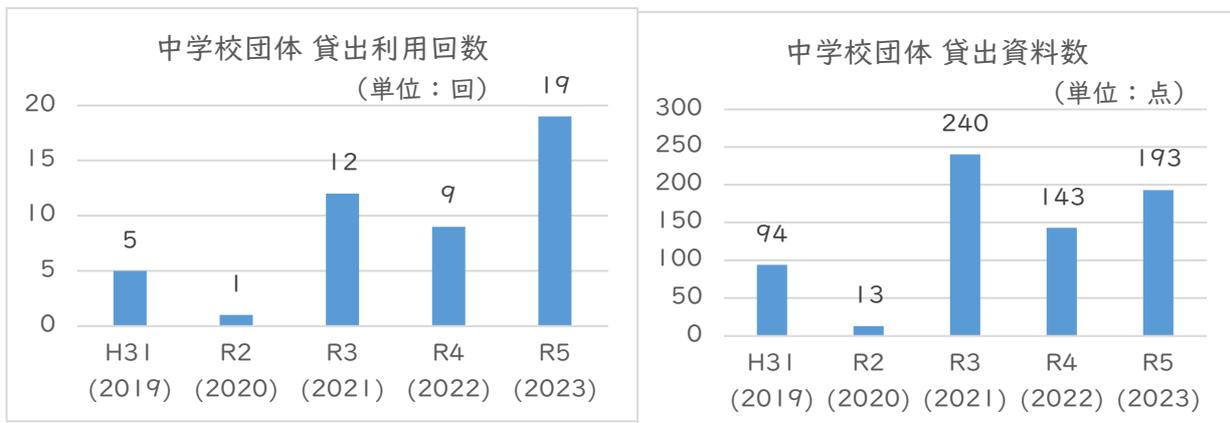
- ・貸出文庫を利用することで、学校図書室だけでなく、様々なジャンルの本を読むことができます。児童生徒が「読みたい本」に出会えるような環境を整えています。

●市立図書館から学校へ貸し出す団体貸出の状況

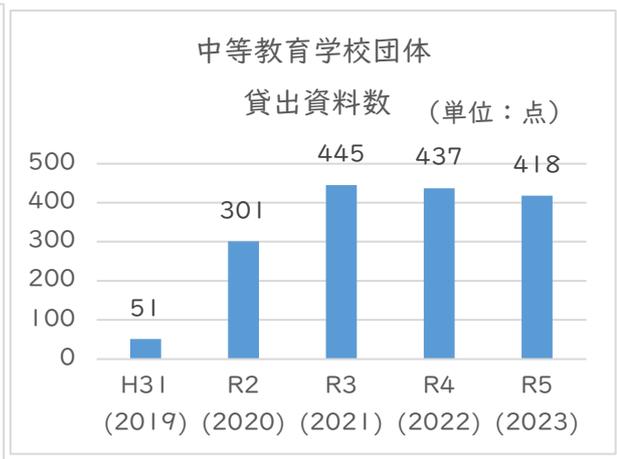
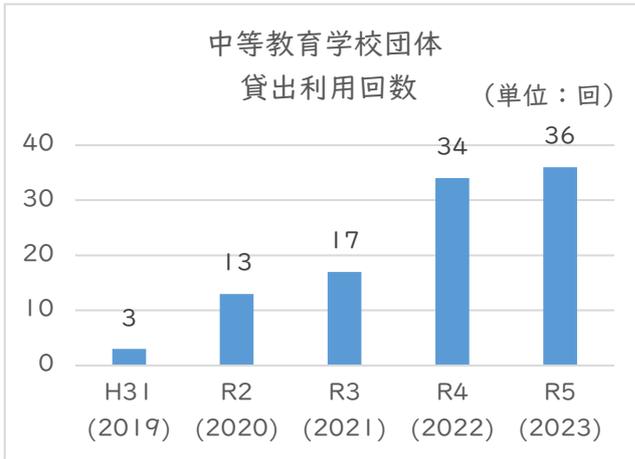
調べ学習や授業で使用するために市立図書館の図書資料を団体貸出します。



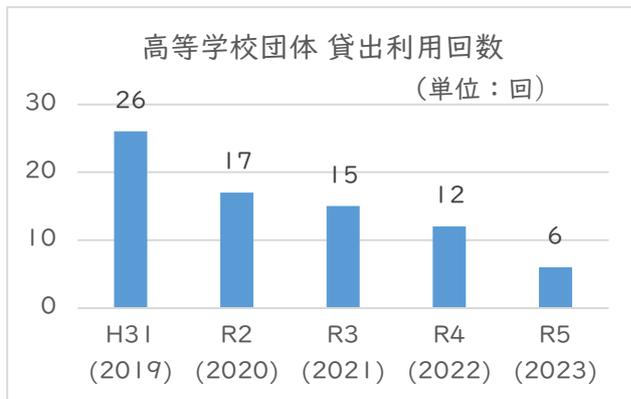
- ・小学校では、学校図書室で対応できないジャンルや数量に対応するために市立図書館の図書資料を事前に準備し、学習に利用しています。特に学校読書支援員が準備をするなど、市立図書館と連携して利用があります。
- ・近年では、調べ学習や探求学習の際、1人1台所有するタブレット端末等で調べるなど、調べる手法が変わってきたことにより、図書資料の利用が減っている状況があります。



- ・中学校では、令和5（2023）年度では4校の利用がありました。主に授業利用によるものです。中学校には学校読書支援員の巡回支援がないため、団体貸出を希望する中学校教諭が直接市立図書館へ申し込み利用しています。



- ・中等教育学校は、利用が増えています。主に図書室の利用を目的として活用されています。「ソフィアセンターの本」としてコーナーが設置され、多くの生徒から利用があります。



- ・高等学校では、年々利用が減っています。令和5（2023）年度は2校の利用でした。

## ■まとめ

学校での朝読書の取り組みにより、読書習慣が定着する傾向にあります。小学校では、学校読書支援員の読書支援も行い、図書室の本を読む子どもが増えています。更に、各学校が移動図書館や貸出文庫、団体貸出を継続して利用しており、学校において幅広いジャンルの多数の書籍の利用が可能となりました。

しかし、学校図書室を利用しない子どもに対して、学校図書室を利用したくなるような読書環境の整備や本が好き・嫌い問わず、多様な子どもの読書欲求に答えられる蔵書の充実をさせる必要があります。特に、中高生の読書意欲を高める読書環境や支援が課題です。

## 《 4 図書館における現状 》

### ●子どもの資料貸出者数

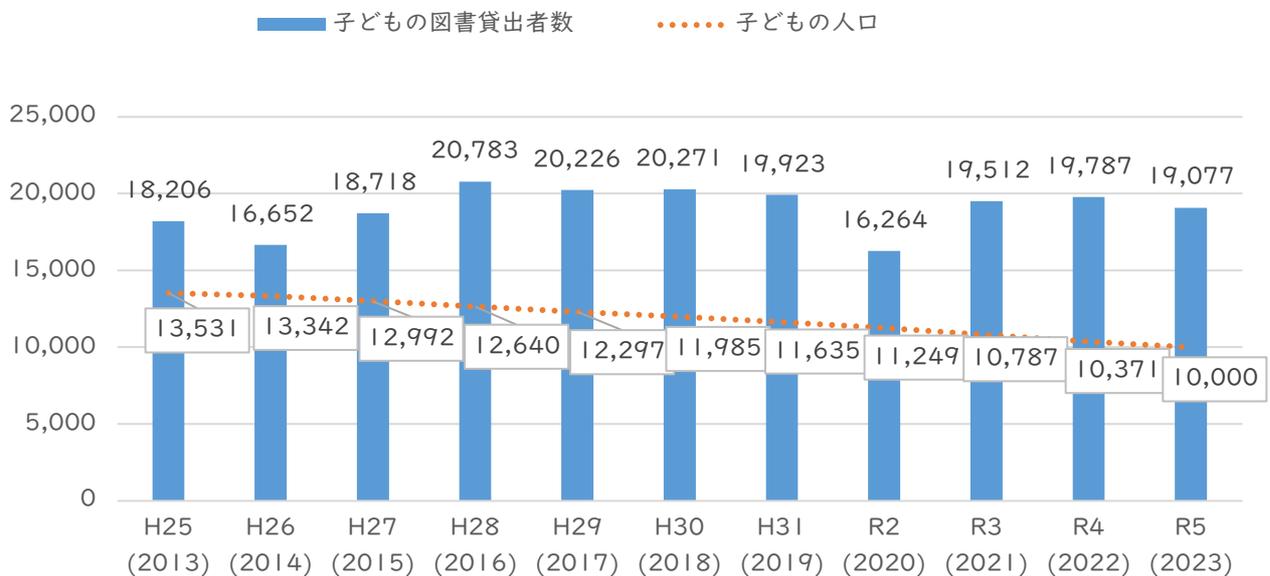
1日の平均貸出者数

平成 26 (2014) 年 度	平成 30 (2018) 年 度	令和 5 (2023) 年 度
46.5 人	57.7 人	54.3 人

・柏崎市立図書館の貸出者数は、過去の実績から約1日50人と横ばいです。

### ●子ども（0～18歳）の図書貸出者数と人口の推移

子どもの図書貸出者数と人口の推移（単位：人）



※出典：住民基本台帳より（各年度3月末）

### ●1年間の子ども（0～18歳）の資料貸出冊数

平成 26 (2014) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和 5 (2023) 年度
65,185 冊	73,406 冊	61,021 冊

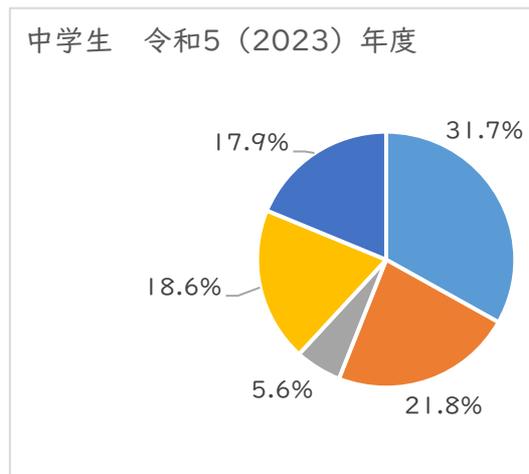
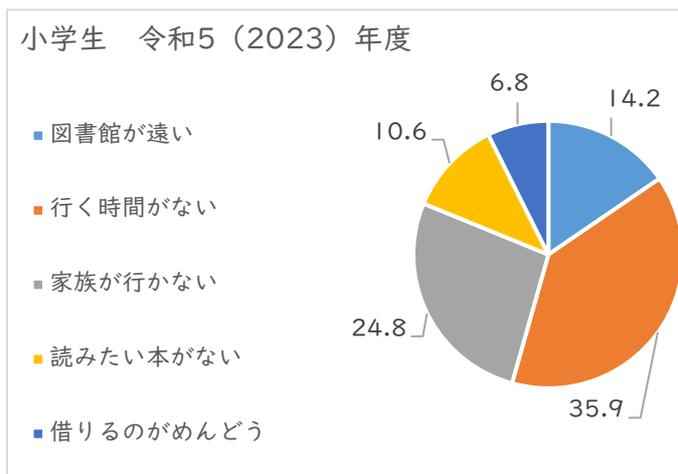
### ●子どもの利用率と利用しない理由

図書館に「行かない」と回答した割合

	平成 25 (2013) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和 5 (2023) 年度
小学生	58.6 %	58.7 %	52.4 %
中学生	82.0 %	83.1 %	77.9 %
高校生	—	—	66.6 %

・市立図書館に行かない割合は小学生で約5割強、中学生で約7割強、高校生で6割強でした。小学生と中学生は若干減少しています。

## 図書館に行かない理由



- ・小学生が図書館に行かない一番の理由は、前回調査時は「家族がいかないから」でしたが、「行く時間がない」に変わりました。
- ・中学生は前回調査時と変わらず、「図書館が家から遠い」、「習い事や部活などで行く時間がない」が割合を大きく占めました。

### ●学校読書支援員による支援

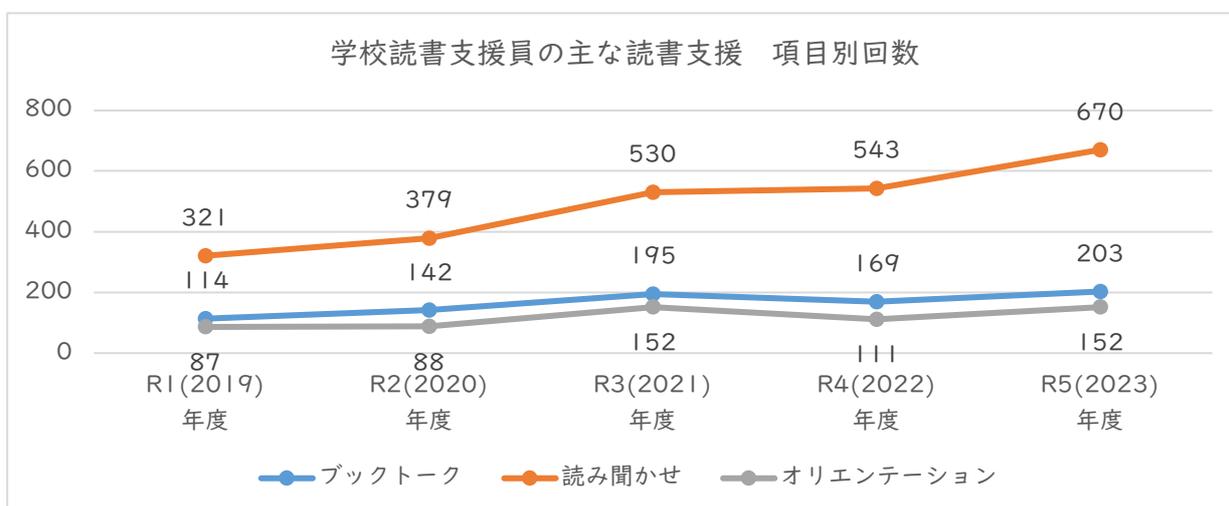
市内すべての小・中学校において、図書館主任は、本来の教諭の業務の傍ら学校図書館の業務を担当しています。資料の選択・収集、図書資料整備及び読書活動の指導など学校図書館の業務を専任として行うことが難しい現状です。そこで学校図書館がよりよく機能するための支援として、平成 28(2016)年度から学校読書支援員を配置しました。令和元(2019)年度に1名増員し、5名で巡回支援をしています。

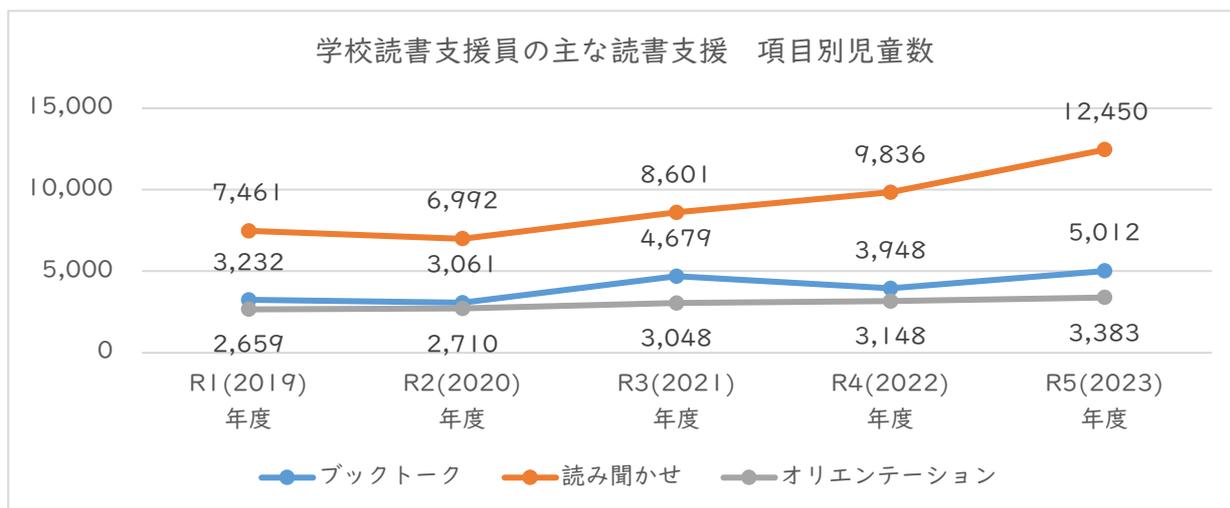
#### ・学校読書支援員の配置経過

平成 28（2016）年度 2名    平成 29（2017）年度 4名    令和元（2019）年度 5名

- ・市内小学校 19校を5名で巡回しています。※高柳小学校の閉校により、令和6(2024)年度から19校

- ・図書の受入・廃棄・修理などの資料整備及び読書指導などを行い、学校図書館の読書環境整備と児童に対する読書支援を行いました。





●かしわぎ子ども司書養成講座の実施

図書委員会児童が本の分類、配架、本の紹介のためのポップづくり、読み聞かせの実演など司書としての基本知識・技能を習得する講座です。平成27(2015)年度から希望する小学校の図書委員会を対象に開講してきました。

平成27(2015)年度 ・28(2016)年度	柏崎小学校、北鯖石小学校	令和3(2021)年度	新道小学校
平成29(2017)年度	比角小学校、荒浜小学校、大洲小学校	令和4(2022)年度	半田小学校 内郷小学校
平成30(2018)年度	日吉小学校、田尻小学校	令和5(2023)年度	中通小学校 内郷小学校
令和元(2019)年度	榎原小学校	令和6(2024)年度	内郷小学校
令和2(2020)年度	二田小学校		

- ・学校全体の読書活動のリーダーとなることにより、学校読書の推進に貢献しています。
- ・児童減少による図書委員会の縮小で、実施校が特定の学校に限られてきたため、実施方法の見直しが必要となってきています。

●中高生への読書推進

- ・ティーンズブックコーナーに中高生が興味を引くような蔵書約200冊を入れ替えるなどして、コーナーを定期的に整えました。また、柏崎高等学校図書委員会からおすすめの本を展示してもらい、中高生により身近な「居場所」となるよう努めました。
- ・令和2(2020)年度から、柏崎高等学校司書と連携して、「おすすめの本」を市立図書館ホームページに掲載しました。また、同校の柏崎サイエンスプロジェクト(KSP)探求学習において、生徒からのレファレンスに対応しました。

令和2(2020)年度	12班12件59人
令和3(2021)年度	12班13件60人
令和4(2022)年度	20班21件78人
令和5(2023)年度	18班18件57人

- ・柏崎総合高校での授業単元で読み聞かせ・紙芝居指導を継続して行いました。

- ・おすすめの本を掲載した中高生向けブックリスト「読んでほしいな」を中学校・高校へ配布し、読書推進を図りました。

### ●ブックスタート事業

- ・絵本の読み聞かせを通して乳児の健やかな成長を促すとともに、家族のふれあいを深めることを目的とし、平成30（2018）年度から4か月健診の時期に合わせて赤ちゃん絵本を一人2冊プレゼントしています。絵本を贈り、早い時期から絵本に触れ、親しむことや、保護者が読み聞かせを行うきっかけづくりをすることができました。保護者からは、高い評価を得ています。

#### ・ふれあいブックスタート(新規)

令和3（2021）年度から、ブックスタートのフォローアップ事業として、「ふれあいブックスタート」を開始しました。令和4（2022）年度からは毎月開催し参加者が増えています。

令和3（2021）年度	5回	31人
令和4（2022）年度	12回	49人
令和5（2023）年度	12回	149人

### ●児童図書等の充実

- ・年齢や利用目的に沿って児童図書等を選書し、受け入れを行いました。読み物だけでなく、調べ学習や探求学習用図書、大型絵本、バリアフリー図書等幅広く整備しました。

### ●年齢別おすすめ絵本リスト作成、配布

- ・ブックスタート事業の開始と併せて、「ふぁーすとぶっく（0～2歳むけ）」、「せかんどぶっく（3～5歳むけ）」の2つのリストを作成、図書館や元気館子育て支援センターなどに設置し、配布しています。

### ●絵本で子育て事業による普及・啓発

- ・オリジナルのシンボルマークを絵本読み聞かせや子育てイベントチラシ、ポスターに用いて「絵本で子育て」の普及・啓発を行いました。



### ●絵本記録ノートの活用

- ・乳幼児向け「これよんで」をおはなし会やふれあいブックスタート、館内等配布し、絵本で子育てのきっかけづくりや、親子の絆を深める記録ノートとして活用してもらいました。

### ●読書手帳の活用

- ・小学生向け「かしわざきし よむっこノート」を希望する小学校や見学の小学生、館内で配布、読書活動や家読（家庭読書）として取組ました。

### ●子ども向け事業

- ・子どもの読書推進につながるようなイベントや講座を数多く行いました。
- ・絵本作家による講演会や人形劇、ワークショップなど多くの事業を、絵本こどもフェスタ実行委員会をはじめ、関係団体等と連携しながら行いました。

## ●乳幼児・親子向け読書活動の推進

図書館で行っている読み聞かせ会、おはなし会等の実施状況

平成 26 (2014) 年度	・読み聞かせ会、紙芝居、おはなし会 延べ 16 回実施	参加者 延べ 646 人
平成 30 (2018) 年度	・読み聞かせ会、紙芝居、おはなし会等 延べ 61 回実施	参加者 延べ 622 人
令和 5 (2018) 年度	・読み聞かせ会、紙芝居、おはなし会等 延べ 42 回実施	参加者 延べ 227 人

・図書館司書の他、市内団体、図書館絵本ボランティアとの連携により、数多くの機会を提供できる体制がとれました。

## ●バリアフリー図書の充実

・子どもたちの多様なニーズに答えるため、ＬＬブックや大活字本、点字図書などを購入し、だれひとり取り残さない読書環境を整えました。

## ●読み聞かせボランティアの育成・支援

- ・図書館に登録している「絵本ボランティア」「ブックスタートボランティア」は継続し、活動しました。
- ・「はじめての絵本セミナー」「絵本の読み聞かせボランティア交流研修会」等を開催し、ボランティアのスキルアップや経験を活かすために交流の機会を持ちました。
- ・希望する小学校や元気館、子育て支援室へ図書館登録している絵本の読み聞かせボランティアを派遣し、育成だけでなく活躍の場を広げました。
- ・地域のボランティアによる読み聞かせは、14の小学校でも行われています。
- ・読み聞かせボランティア研修会での講師の確保が難しく、今後の課題です。

## ●読書関係職員の研修

・教育センターが読書講演会を開催しました。また、教職員に向けた研修会を同センターが企画し、図書館司書が「図書修理」や「ビブリオバトルの手法」について講師をしました。

## ●子ども読書活動の広報・啓発

- ・子ども読書活動の一環として、子ども読書の日や子どもの週間、秋の読書週間に、子ども司書によるポップ（本の紹介）展示や絵本作家の原画によるぬりえ展などのイベントを開催し啓発しました。
- ・元気館広報ホームページ「すくすくネット」と図書館ホームページをリンクし、広報や読書啓発を図りました。

## ■まとめ

読み聞かせボランティアの育成では、経験を活かすために交流の機会を持ち、ボランティアのスキルアップがなされ、地域や学校、ブックスタートボランティアへと活動が広がりました。また、ブックスタート事業や年齢別おすすめ絵本リスト作成・配布、絵本で子育て事業、かしわざき子ども司書養成講座の実施等数多くの事業を継続して取り組みました。

特に、ブックスタート事業は、保護者から大変好評で、早い時期から絵本に触れ親しみながら親子の絆を深めることや、読み聞かせのきっかけづくりをすることができました。フォローアップとして新規に始めた「ふれあいブックスタート」では、ブックスタートの意義をより深め、保護者への意識付けや市立図書館の利用促進へつながりました。

子ども司書養成講座の実施により、図書委員会の児童が学校全体の読書活動のリーダーとなることで学校読書が推進されました。

学校読書支援事業は1名増員し、現在19小学校を5人の学校読書支援員で巡回支援していますが、児童へのより良い支援のためには、学校の司書教諭等との連携と役割分担の工夫や調整協議が必要です。また、中学校からの支援の要望もあり、より充実した支援ができるよう、事業展開の必要があります。

新たに高校との連携も図り、中高生が図書館を利用しやすい環境づくりや読書推進に取り組ましたが、中高生が読書をもっと身近に感じて、図書館を利用してもらうことが課題です。